



**ドクターヘリ出動1日平均4.3回。救命率向上へ励む但馬救急救命センターのセンター長**  
小林 誠人さん(46歳)戸牧



平成22年1月に、公立豊岡病院に赴任。「但馬救急救命センター」と、日本海側で初めてとなるドクターヘリ運航の立ち上げを任された救急医です。同年4月に事業開始してから5年。迅速な治療・搬送で救命率の向上や後遺症の軽減の成果が図れ、医療過疎といわれた但馬地域が劇的に好転しました。

全員「豊岡病院で働きたい」と集まった面々です。小林さんは鳥取県出身です。5年の実績を踏まえ「地方での救急医療をどう展開させ、根付かせるか。ここでの取組みが日本の地域救急医療のモデルや、参考になればいいと思っています」と話します。「時間が空けば竹野へ、1泊2泊なら沖繩や石垣島などで潜りに。いろんな業種の人に出会えるのも楽しい」と、趣味のスキューバダイビングと水中写真でリフレッシュ。これが、日々の激務に向かう原動力になっています。

**Toyooka Topics** —とよおかの“旬”な人と話題—



▲研修の様子

**在住外国人向けの防災研修 「逃げる」「自分の命は自分で守る」が大事!**

3月14日、本庁舎3階 庁議室で、市内の在住外国人や外国人支援に関心のある市民を対象に「在住外国人向けの防災研修」を開催しました。当日は、NPO法人兵庫県防災士会豊岡ブロックの皆さんに協力していただき、『風水害』をテーマに実施しました。同ブロックの水嶋明美さんが過去の豊岡の災害状況などを動画や写真で分かりやすく説明しました。また、会場内に非常持ち出し品や災害パネルも展示し、参加者は実際に手に取って、確かめていました。参加者からは「一層災害の怖さが分かってよかった」などの感想がありました。

**西宮市吹奏楽団コンサート 5年ぶり響いた春風のプレゼント!!**

3月29日、日高文化体育館で、西宮市吹奏楽団コンサート(主催：NPO法人コミュニティ日高)が開催され、迫力ある華麗な演奏を多くの市民が楽しみました。このコンサートは当文化体育館の完成記念として昭和62年に催されて以来、平成21年まで毎年のように開催。その間、日高からは西宮市の小学校などに雪のプレゼントが行われました。今回は、同月22日に開催された「第5回ひだか市民吹奏楽のつどい」の節目の演奏会と合わせて企画されました。同法人事務局長の菅村和弘さんは「吹奏楽の底辺を広げる起爆剤にしたい。事業を継続することで地域の文化の質を上げられれば」と話しました。



▲全国吹奏楽コンクール金賞の音色